

スローガン 自らの確立 これからの飛躍へ

1 はじめに

1949年、戦後復興を進める日本において青年会議所運動が始まりました。それから21年後の1970年、共に語り、共に喜び、共に励まし合う場を求めた青年達が調布青年会議所（調布 JC）を設立しました。今から45年前の事です。“明るい豊かな社会”の実現を理想とし、“社会と人間の開発”を目標としたその組織は、時代に合わせてその形を変えながら、地域を動かす多くの人材を輩出し、調布という地に必要とされ、これまで在り続けました。

設立当時とは比べ物にならないほどのスピードであらゆる事柄が変化していく今日、私たち調布青年会議所は、今の調布に本当に必要とされているのだろうか。私たちは何を大切にし、どこに向かって進めば良いのだろうか。そもそもこの組織とは一体何なのだろうか。自分のような人間が、この組織に対してできる事なんてあるのだろうか。理事長という職を受けるにあたり、そんな事を改めて考えました。全国の青年会議所が抱える大きな問題の一つとして、メンバーの減少が挙げられます。その問題は単純に少子化などの社会問題だけが原因とは思えず、もっと組織として根本的な問題を抱えているのであれば、その形を見直し、変えていく事が自分の役割なのかもしれない、と考えるようになりました。地域や社会に必要とされなくなった企業はどんなに歴史があろうともあつという間に消えてしまうように、必要のない組織は無くなっていくのが原理であり、無くなった方がむしろ地域や社会にとって良いのではないのでしょうか。

設立45周年を迎える本年は、この組織の存在意義や価値を改めて確認し自らを確立する事、そしてこれから先も地域に必要とされ続ける組織として大きく飛躍していく事を目的とし、運動を展開していきます。入会して7年、知らぬ間に自分の居場所となっていた調布 JC が、これからも大切な仲間と共に在り続けるために。

2 ビジョンの策定と確立

本年度の調布 JC は平均入会歴が4年に満たないメンバーで構成されています。新陳代謝を繰り返すこの組織には、私たちが進むべき方向を示す地図が必要です。私たちのまち調布の5年後10年後を考え、どんなまちであってほしいか。そこで必要とされる JC とはどんな存在であるべきなのか。本年度は、私たちが向かうべき明確なビジョンを策定します。その為には、私たちの地域に対して念入りな調査や研究が必要です。市役所はもちろん、地域の問題点に常に向き合っている各種諸団体、地域で活躍されている諸先輩方などに触れ合う多くの機会を作り、問題点と解決方法を考える必要があるのではないのでしょうか。そして、メンバーで共有し、意見を出し合う必要があるでしょう。インターネットなどでは得られない情報や真実から生まれたビジョンこそが、現実味や説得力を持ち、力強い継続力とともにこれからの調布 JC を導いてくれると思うのです。

ビジョンは策定するだけでは意味がなく、実行する必要が在ります。しかし残念ながら、

単年度制であるこの組織では継続的にビジョンを持ち、実行に移すのは簡単ではありません。策定し、それを組織の中で確立する事が重要です。

3 調布のまちを考えるにあたって

調布市では京王線の立体交差化が完了し、駅前広場や鉄道敷設跡地利用の構想がこれから形になり、調布駅周辺環境はここ数年で大きく変化していきます。それはまた、2020年開催決定の東京オリンピックへ向けたまちづくりとも大きく関わってきます。多摩で唯一の会場地となる調布市。日本のみならず、世界中の方々に向けて調布市を知ってもらうまたとない機会となります。訪れた方々が、また来てみたい、住んでみたいと思える街となっているのかどうか、といった視点がまちづくりには必須です。また、調布には深大寺、多摩川、調布飛行場、映画撮影所、競輪場、FC東京、ゲゲゲの鬼太郎など多くの魅力が存在します。都市計画が進み、発展すれば新たな魅力となるであろう地域も多く存在します。どうすればその多くの魅力を活かしていけるのでしょうか。必要なのは、その瞬間だけでなく、継続的な活性化に向けた調布市の発展であり、発信でなければいけません。それこそが、私たちが目指す「明るく豊かな社会」に繋がるからです。その為に、まず市民が調布の未来に対して関心を持ってもらう事が重要です。特に地域のリーダーたらんとする私たちメンバー一人一人が強い意識を持ち、責任を自覚し、運動を発信していかなければなりません。

4 私たちを知ってもらおう

45年という歴史のあるこの組織は、調布市民に対して広く認知されているのでしょうか。ほとんどの市民はその存在すら知らず生活しているのではないのでしょうか。私たちは常に、自分たちの貴重な時間と体力を使い運動を地域で展開しています。ですが、どんなに素晴らしい運動を展開しても、認知されなければその効果は広がっていきません。私たちが地域でこれからも必要とされる為には、一人でも多くの市民にその存在や運動を知ってもらう必要が在ります。ただし、人の興味を引く、関心を持ってもらう事は簡単な事ではありません。様々な発信手法を検討する事が重要です。そして、様々な情報が溢れる時代だからこそ、改めて情報の大切さや危険性など色々な視点から考える価値があるのではないのでしょうか。本年は調布JCに存在する強力なネットワークや知識を総動員し、次年度以降にも展開できる広報活動を調査研究していきたいと思えます。継続力を持った力強い情報発信は、地域の諸団体やシニアクラブの先輩方、一般市民から新入会員候補まで様々な交流を生み、新しい価値を創造できるはずだからです。

5 子ども達の笑顔が地域を活性化させる

現代に生きる子供たちは幸せでしょうか。物質的には豊かになりましたが、心の豊かさはどうでしょうか。それを育める環境でしょうか。幸せの定義は色々ありますが、一つに「安心感」が挙げられるのではないのでしょうか。将来に漠然とした不安を抱えた大人たちと共に育つ、現代の子供たち。そんな子供たちが「安心感」という幸せを感じながら大人へと育っていけるのでしょうか。純粋な子供たちに対し、私達大人が与える環境や教育は本当に大きな影響を与えたいと思えます。つまり、将来を担う子供たちの事を考えるときに、

私達世代が抱える問題は切っても切り離せない関係であるということです。親として、地域の大人として、どのようにあるべきか。今こそ改めて考えてみる必要があるはずです。

また私達が行う青少年事業は、家庭や学校ではなかなか味わえない事を体験する機会を提供する場であるべきです。そして提供だけではなく、参加してくれた子ども達、家族達の目線に立って展開する必要が在ります。なぜなら事業後に子ども達に残る記憶や感情こそが、最も価値のある事であり、事業の大きな目的としていかななくてはいけないと思うからです。青少年育成こそが将来の地域の活性化へつながる、という強い意志を持って運動を展開していきます。

6 会員拡大について

会員拡大は新陳代謝を繰り返す組織として常に付きまとう問題です。人が集まれば集まるほど、その運動は地域に対して与える影響が大きくなりますし、多くの仲間を作る事が自分たちの為にもなる事は明確です。ですが、敢えて2015年度は「会員拡大」に特化した委員会は設けません。理由は二つあります。一つは、前年度の「会員拡大戦略室」を引き継ぐ事で、理事役員全員が拡大に対して意識と責任を持ちやすくなる事。理事役員の一人一人が責任を持ち、積極的に動く事が、メンバー全体に会員拡大の意識を広げる事ができるのではと考えるからです。もう一つの理由は、私達メンバー一人一人が人を惹きつけるような魅力を持ち、惹きつけるような運動を発信していれば、地域から必要とされ、おのずと人は集まってくるのではないかと考えるからです。

本年度は、組織としての形をしっかりと形成し、価値観の異なるメンバー同士の交流やシニアクラブ先輩諸兄との交流など多くの機会を設け、自己成長に繋げていくことに力を注ぎたいと思います。それが将来的な会員拡大につながると確信しています。

7 青年会議所を楽しもう

当会の定款に在るように、調布JCは「指導者訓練を基調」とした組織です。人によってJCがどんな存在かは違うと思いますが、私にとっては、地域や会社でリーダーシップを発揮できる人材を育成する組織である、という認識を強く持っています。単年度制のメリットは、メンバーが様々な立場を体験でき、普段の自分とは視点を変えなければいけない機会を多く得れる事だと感じています。その為通常では味わえない体験や機会に触れる多くのチャンスがあり、前向きに取り組む事で今までの自分を乗り越えたり、違う自分を見つける事ができます。関心がなかったり不得意な事に対応しなければいけない場面が必ずあり、その苦しみや悩みを通じて自分を変える事ができるのです。

さらにJCとは、成人して以降に「人の価値観を変える」という人生でも数少ない貴重な場と考えます。多種多様な価値観を持つメンバーに出会い、違う価値観とぶつかる事で、今までの自分の価値観を再認識、または新たに発見し、それを変えていく事ができます。

今年度は、そういった日々の運動を支える為に、定款・運営諸規定などを丁寧に見直し、整備していきます。それによってメンバーには青年会議所の価値を今まで以上に感じていただき、後輩メンバーに対して、先輩メンバーがJayceeとしての成長を支えていける事に注力できる組織としていきます。

8 おわりに

共に苦楽を味わった青年会議所メンバー同士の絆はとても強く、大きな力となります。しかしながら、馴れ合いや怠惰といった負の力に変化してしまう可能性も隣り合わせです。自分たちはどうあるべきか、常に自分たちを俯瞰し、理想の状態であるかどうかを確認し続ける必要があります。お互いを気づかい、誠実で謙虚である事。日本人が大切にしてきた気質を再確認し、品格のある組織であることが地域の信頼にも繋がっていくはずですが。信頼を無くし、地域に必要とされなくなった瞬間、組織の存在意義とともにあつという間に消滅していくでしょう。社会生活を営む上で守らなくてはいけない当たり前の事を常に自覚し、自分を律しながら行動していきましょう。地域や会社や家庭で、人の模範となっていくメンバーなのですから。

調布の大きな飛躍を夢に描き、立ち上がった先輩方の創始の気概を胸に、45周年という記念すべき1年を、メンバーと共に楽しみながら駆け抜けていきたいと思えます。一年間どうぞよろしく願いいたします。